

平成18年度教員教育改善評価実施結果の概要

平成19年11月15日

茨城大学長 菊池 龍三郎

本学では、平成18年度の教員の教育活動について、教育活動の改善を目的に、教員を対象に評価者評価を行いました。初めて取り組んだこともあり、課題を残したままの実施となりましたが、各学野長から学長へ評価概要が報告されましたので、学長として評価結果を総括いたしました。

教育改善評価は教員を査定することが目的ではなく、担当する授業の成果を自ら総合的に点検評価することにより、教育活動の改善と向上を図ることを主眼とするものです。今後も教員評価を継続することとなっており、評価に対する教員の理解の進展と評価の質の向上のため、実施結果の概要を公表いたします。

なお、今回の評価は教員の処遇へ反映させておらず、今後の検討課題として残されています。

1. 評価システムの概要

「平成18年度教員の教育改善評価本格実施手順」に基づき、評価システムを構築して実施しました。以下に概要を示します。

(1) 評価の枠組み

学野毎に評価する。評価主体は学野長とする。学野長は評価結果の概要を学長に報告する。

(2) 評価の観点

次の3つの観点で評価する。

- ・ 教育業務の全体的取組（量的評価）
- ・ 教育方法および教育成果の改善に対する取組（質的評価）
- ・ 学生・院生が主体的に活動する教育研究との共同の取組や教育改善での特筆事項

(3) 評価対象授業科目

教養科目、専門科目、大学院科目の中からそれぞれ1科目を選定し、自己点検評価の対象科目とする。科目の選定は学野で決定する。

(4) 自己点検評価と段階評価

大学統一の自己点検評価書式を用い、上記（２）の観点毎に４段階で自己評価を行う。Ｓ；自己の目標以上の成果を上げた、Ａ；自己の目標を順調に達成した、Ｂ；自己の目標を概ね達成した、Ｃ；自己の目標を下回った。学野長による評価も４段階で行う。

２．評価対象の概要

評価対象者は専任教員としました。対象者数は、人文学野 99(99)名、教育学野 114(109)名、理学野 71(70)名、工学野 151(140)名、農学野 61(61)名で、括弧内は実施者数です。

３．評価結果の概要

評価者による評価結果では、ＳとＡの評価となった比率は、学野によって異なり 87%から 100%となった。教員の教育活動については、各学野とも高い評価を与えています。しかし、この評価者評価における各学野での評価水準の違いや、段階評価におけるＳＡＢＣへの理解の違いなどがあり、さらには、今回は初めての実施のため教員個人が自己評価するにあたって評価水準への理解の違いがみられたことなどがあり、評価結果を学野間で比較することはできません。より精度の高い評価システムとするため、評価の質の向上が必須と考えております。今後ともさらに一層質の高い評価を実施するよう努めるつもりです。

なお、平成 19 年度には、教育・研究・校務・社会貢献の 4 業務について、教員評価を実施しますので、ご協力をお願いいたします。